

一、日本紡織労働組合組織改正に関する件

提案者 組合本部

【修正理由】我が日本紡織労働組合は昭和四年四月関西地方の組織進展の機として全国的産業別組合として組織されたが、未だ舊規約を改正する機会なく全国組合としての活発なる活動上幾多の不便を感じた。一時関西に於ける組織運動の沈滞により本組合の活動も主として関東方面に限られたが、最近に於ける関西地方の著るしい発展により、更に又今後益々べき活性化しゆく闘争に備ふるために、茲に規約を改正して全国的産業別組合としての組織を充實せんとするものである。

【改正要案】

- 一、組合本部を充實するため新しく執行委員会を設置したること
- 一、本部役員として副組合長を置くこと
- 一、各地方の支部聯合会を確立せしめ、本部の活動を助成し地方的日常闘争を統一促進すること
- 一、会計会議を新設して、組合の本部並に支部の財政上並に会計上の充實監督を円滑ならしめること
- 一、組合同盟並に對しては、日本紡織として同盟本部に加盟し地方一聯合会には當該支部聯合会が加盟すること
- 一、詳細は別紙、改正規約草案並に組織図解参照のこと。

宣言草案案

現下の世界を通じての資本主義共通の現象は歐洲戦後に於ける経済恐慌の醜態を對し産業合理化を中心として資本主義制度の一時的安全への努力下である。而して我々國資本家階級も亦近時産業合理化の美名の下に労働階級の犠牲に依りて財界恐慌切り抜きの一時的安定を切力が強烈に行使せられたる。其結果我國労働階級は失業と賃銀の低下が能率増進の犠牲制による過勞・過働時間・延長等凡ゆる犠牲を其の肩に負はされつゝある。殊に我等労働者は長年の間要求し其のたぐひに及ばなかつた深夜業廃止が愈々本年七月一日を以て実施せらるゝに當り、我國紡織資本家階級は此深夜業廃止による犠牲を我等労働階級に負はせしめんとし、到るに、請員單價と賃銀貸下が行使され其対抗のため、労働資金の枯竭するに至つた。

我が日本紡織労働組合は、大正十四年関東紡織労働組合として組織せられて以